

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2571800107		
法人名	社会福祉法人 達真会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設 ささゆりの家		
所在地	滋賀県犬上郡多賀町佐目675番地		
自己評価作成日	令和5年3月29日	評価結果市町村受理日	令和5年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山七丁目8番138号 滋賀県立長寿社会福祉センター内		
訪問調査日	令和5年10月24日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ささゆりの家の理念『相手を思いやる支援』をもとに、その人らしい生活の継続を目指したケアを実践している。利用者の自発性を尊重し利用者の想いや希望を引き出し、汲み取り、実現に近づけるように努力している。特に日々のレクリエーションには力を入れ、その人らしさを大切に施設の生活に生きがいを感じていただけるよう、継続的に取り組んでいる。また、職員に於いては認知症の理解を踏まえ、利用者個々の「できる事」を模索し利用者の自身に繋がるケアを提供し、職員一同、笑顔と笑いに満ちたグループホームを目指しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

季節の移り変わりが身近に感じられる自然豊かな環境に「ささゆりの家」がある。同敷地内には、特別養護老人ホーム・デイサービス・ショートステイが運営されており職員の研修や防災等の協力関係にあり、お互いに向上し合うことが出来ている。コロナ禍は、地域や施設の行事が自粛となり利用者と地域住民との交流が出来にくい状況にあったが今年度より感染対策に留意しながら徐々に開始を模索している。自然の光が差し込む明るいリビングでは、職員が準備した点線つなぎ(脳活)に夢中で取り組む方やテレビを楽しむ方など穏やかな雰囲気があった。自発的に食器拭きや洗濯たみを行い生活の一部となっている利用者もいる。職員は一人ひとりの特性に応じて出来る力を大切にし過剰に手を出さず安全を見守った自立(律)の支援に努めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に1度、法人で職員の全体集会を行い、法人理念、事業所理念について周知、共有を図っている。毎月グループホームの職員対象に、理念の実践と人材育成を目的に、認知症に関する勉強会を実施している。	法人理念に沿って「ささゆりの家」独自に事業計画を立案し全職員で共有して実践に努めている。定期的に利用者の満足度について話し合い振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響により地域のサロンへの参加は自粛している状態である。地域の住民の方を交えた夏祭りも自粛となり地域交流は困難な状態が続いている。	コロナ禍は、イベントでの交流は自粛していたが感染の状況を見ながらボランティアの受け入れやイベントでの交流を模索している。散歩時には、地域の方と挨拶を交わす関係は継続出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の住民の方については、グループホームの利用者との面識もあり、認知症の理解もして頂ける方もおられる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響により感染予防として会議等は自粛している状況である。2カ月毎に書面にて送付させて頂いている。	今年度より感染対策に留意して参集での会議となり事業所の近況報告や取り組み・地域や行政・家族代表との情報交換・意見交換が活発に行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議はコロナ禍の影響により文書のみで近況報告を行っている。防災に関しては市の自警団に所属し地域住民と協力し取り組んでいる。	施設長が市の役をしていることもあり常に情報交換は出来ている。何か相談事項があればすぐに出来る関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束廃止委員会に出席し、委員会の活動や決定事項を現場に周知している。法人全体の身体拘束廃止に関する研修会に参加し、拘束の無いケアの実践に活かしている。	法人全体で身体拘束をしないケア(スピーチロックも含む)に取り組んでいて定期的に研修会に参加したり伝達をし正しい理解を確認している。特に新職員には研修会に必ず参加出来るように配慮して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の身体拘束廃止委員会に出席し、委員会の活動や決定事項を現場に周知している。法人全体の研修会にも参加し、ケアの実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修に於いて、成年後見制度について周知し必要に応じて対応できるように、実践に活かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書で法人や事業所の特色及び具体的なサービス内容、金額を説明し、質問や疑問に答え、納得して頂いた後に契約書にサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な連絡や、家族の訪問時、ケアプラン更新時に、家族の要望を聞き、運営に反映させるように努力している。	利用者が自発的に要望を言える雰囲気があり実行可能なことから反映させている。家族等には、面会時や受診の付き添い時など意識的に意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と施設長及び上司との面談は定期的で開催している。また、希望者には随時面談の機会が設けられている。	会議では意見や要望を言い出せない職員には、リーダーから声をかけたり管理者が様子を見て聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人独自の人事考課制度を実施。職員の自己評価をもとに上司、施設長との面談が行われ、職員個々の評価が行われている。法人内の安全衛生委員会を中心に職場の衛生管理、安全対策を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役職や分野に応じた施設内研修が行われ、外部研修にも参加している。研修参加後は内部、外部を問わず、研修報告書を作成し、自身の理解度の確認に役立っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	彦愛犬グループホーム部会に参加している。研修会や行事を通じて、他のグループホームとの意見交換や交流を図っている。本年度は文書のみ意見交換となる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャー間の連携や事前調査を行う事で本人の想いを汲み取れるように努めている。家族には利用に関する説明を行い、不安を解消して利用を開始して頂けるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の訴えを傾聴し、関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族とのコミュニケーションを密にし、アセスメントを行った上で、必要な支援を決定している。当グループホームの説明だけにとどまらず、他のサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームに入所した後も、本人らしい生活が継続できるように、職員が必要最低限のサポートを行い、利用者主体の生活が実現できている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、生活の様子を家族に送付している。面会時や電話連絡の際には、本人の状態を伝えと共に、家族の意見や希望を聴き、ケアに反映させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響により一時的に面会を中止していたが、感染の縮小と共に制限を設けて面会を再開した。地域交流は以前として自粛している。	感染防止対策をしながら馴染み人の来訪を歓迎している。桜や紅葉見学には、懐かしい公園等へ行くことが多く「まえに来たことがあ」と喜ばれている。	感染の状況によりますが地域の方との交流が気軽にできる様になればいいですね。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自発的に発言し、互いを気遣っている。この背景には心身の安心が必要であり、利用者が安心して生活を送れる支援が行えている事の表れである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に入所された方は、退所後も新しい環境で安心して生活して頂けるように他部署と連携を図り情報共有を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、本人の思いや話された内容を記録に残すよう努力している。本人らしい生活を軸に据えケアを行っている。	比較的、自分の思いを言ってくれる方もいるが意思疎通が困難な方には何気ないつぶやきや、表情から汲み取り把握に努め可能な限り本人の思いを大切に支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前訪問を行い、本人、家族、ケアマネージャーから情報を得ている。本人の生活歴等に関しては、入所に職員への周知を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人らしい生活の継続を軸に、日々の暮らしの観察や記録を行っている。本人の有する能力や可能性に関しては常に情報共有を行いケアプランに反映できるように心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、必要時にカンファレンスを行い、本人、家族、介護職員、他職種職員の意見を総合したケアプランの策定に努めている。他職種間での情報共有、意見交換、評価も行っている。	本人の思いや意見は日頃のかかわりの中で聴き、家族等には面会時や電話で意見や要望を聞きいて介護計画を作成している。日々の生活記録を参考に話し合い定期的にモニタリングしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンにて記録の管理を行い、職員間での情報の共有を行っている。必要に応じ職員に意見を求め、ケアプランに反映させるよう心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて本人や家族との相談や面談を実施している。併設の施設相談員や地域包括支援センターの職員にも意見を求め、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はサロンに積極的に参加していたがコロナ禍の影響により参加は自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所する前から委託医の患者であった利用者が多くおられる。週2回主治医の訪問があり、利用者の状況報告や相談を行っている。また、常時の連絡が可能で緊急時の指示を仰ぐこともある。	事業所の委託医の往診を利用されている。他科については以前からのかかりつけ医や委託医の紹介状にて基本、家族同行にて通院されている。診療情報は関係機関で共有し健康管理されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	複合施設である為、他部署に看護師が出勤しており、常に連絡相談が行える体制が確立されている。夜間においても常時看護師と連絡が取れる体制が整っている。感染対応の内部研修も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は主治医、担当相談員、看護師、家族との連携を行っている。退院間近には退院前カンファレンスに参加し、情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の際の対応に関しては、契約時に本人や家族の意向を伺い、施設の出来る事と出来ない事の説明を行っている。心身の能力が低下した場合に、併設の特養入所を希望される場合には、特養のケアマネと連携を取っている。	事業所で対応できるケアについて契約時に説明して理解を得ている。重度化の傾向にある場合は、本人・家族の意向を確認しながら、特別養護老人ホームや医療機関等への住み替えの提案をしている。	今すぐには看取りの体制が整っていませんが、今後にに向けて話し合いの機会があるといいですね。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修にて救急救命講習の実施を行っている。新人職員が夜勤勤務を開始する際には看護師の指導のもと緊急時のオンコール研修も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災減災委員会にて災害時のマニュアルが策定されており、避難訓練も実施されている。災害時の食料備蓄は法人全体で行っており、3日分の食料が備蓄されている。地域の食料備蓄の場所も提供している。	災害時のマニュアルに沿って定期的に避難訓練が実施されている。地域の自警団との協力関係が築かれている。	地域との協力体制もあり素晴らしいです。入居者の状態も変化してきますので今後も繰り返し話し合われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設全体で「不適切ケアの改善」を目標に接遇面、言葉遣い、介助方法の向上に取り組んでいる。人権研修も実施している。	施設全体で委員会(接遇委員会など)を発足し勉強会などの取り組みで職員の質の向上を図っている。また「不適切なケア」を見かけたら職員同士が声を掛け合う雰囲気を作っている。	チーム全体で話し合える環境づくり、話しやすい環境づくりについて継続的に検討されるといいですね。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な利用者にも、動作毎に次に行う動作の声掛けを行い、意思の確認を行っている。また、表情からも気持ちを読み取るように心掛け、本人の希望や自己決定を引き出すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおまかな流れは決まっているが、1人1人の生活スタイルやその時の気持ちを優先し、本人が自由に過ごせる個別ケアを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問散髪を利用し、利用者の希望に応じたカットを行って頂いている。入浴後の整髪も本人の希望に添った髪型にセットしている。日常の衣類は本人を選んで頂くように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備は利用者と職員と一緒にやっている。食器洗いも職員が下洗いをし利用者に洗って頂いている。日々の献立は季節感を感じられるもので、利用者の意見を取り入れる様にしている。	利用者のできることを職員と一緒にやっている(洗い物など)又、生活の中で一言を大事にし、利用者の意見をしっかり取り入れており、献立に反映している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎日記録している。利用者の症状に応じ、減塩等医師の指示を仰いでいる。過去の生活歴を把握し、食事内容に反映している利用者もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者に歯磨き又は義歯洗浄、うがいの口腔ケアを行っている。訪問歯科を利用し、義歯の調整、自歯のブラッシングを行っている利用者もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援を基本として残存機能を活かし必要最低限の介助を行い、プライバシーの配慮を行い実施している。	「介護スキルチャレンジ」を施設全体で取り組み、プライバシーの配慮・声掛けの研修を行っている。排泄時の声掛けにも十分配慮し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立は繊維質が多く摂れるように心掛けている。体操や散歩等、個々の能力に応じた運動の機会を設け、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の際は、入浴前に必ず本人の意向を確認してから入浴して頂いている。入浴を拒否される方には無理強いせず、入浴日を変更する等の臨機応変な対応を行っている。	以前は午前入浴だったが利用者の意見を反映し午後入浴に変更。大変喜ばれている。「入りたくない」気持を大事に次の日にするなど臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活スケジュールは組まれているものの、日常生活は利用者個々の選択が基本となっている。就寝時間も個々によって異なる為、職員本位の臥床介助を注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の状況について主治医と相談し、薬の見直しや頓服の服用を行っている。最新の薬情報をファイリングし、必要に応じ効能や副作用等を職員が確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割が持てる能力のある利用者には役割を持って頂き、他者に貢献する喜びを感じて頂いている。また、レクリエーションでは他者とのつながりを実感して頂けるように、笑いに満ちた時間を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響の影響により、外出支援の実施は自粛している。	コロナ禍ではあるが、職員と散歩をしたり季節を感じながら地域の方とお話したり、本人の希望をできる限り反映している。施設内のローカを歩いたり積極的に運動の機会は作っている。	運営推進会議のメンバーや地域の方に草引きなどのボランティアをお願いしてはどうか？利用者スタッフと一緒に草引きなども運動になって良いのではないかと検討されてはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に職員が利用者の現金は預からない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの電話依頼があれば都度職員が電話かけ利用者に代わって対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた空調管理を行い利用者が快適に過ごして頂けるように心掛けている。また、季節感を感じて頂けるようレクリエーションを通して貼り絵等を実施して頂いている。	共同スペースでは毎月創作活動で作成した作品を飾り季節を感じていただいている。風呂場・トイレ・共同スペースなど全てのフロワーが広く、ゆったりと居心地の良い環境である。不穩になっても、クールダウンのできる場所も確保できており落ち着いた雰囲気である	水廻りのハイターなどは手の届かない所に置か、カーテンなどの工夫があると リスク回避が出来るのではないかと思います。検討されてはどうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は何処で過ごすかは、利用者の選択に任せている。環境面では、リビングでは気の合った利用者がイスの隣同士に座り、雑談しておられる姿が見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の生活に関わりのあるものや、家族の写真、馴染みの家具、使用されていた湯呑や茶碗を持ってきて頂いている。居室内は本人の身体能力を考慮し、安全を配慮したレイアウトとなっている。	在宅生活で使用していた馴染みの家具や写真を置いており安心した空間である。又手すりに物を置かないなど安全に配慮している。シーツ交換は週に1回実施し清潔にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を解りやすくする為に、居室前に表札を掲げている。居室内は本人の手の届く範囲に収納物を置くようにしている。共同トイレには利用者の目線に「便所」と大きな張り紙をし、目印としている。		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	52	施設内の共有スペースにハイター、洗剤などが利用者の手の届く所に置いてある為、誤飲のリスクがある。	共有スペースの生活の中で、認知症を考慮した安全な環境を構築する。	ハイターや洗剤以外にも危険物がないか確認を行う。危険物の管理については、危険物を置ける場所を確保し、利用者の目に付かない所や、手の届かない所で管理を行う。	1ヵ月
2	36	利用者、ひとり一人の尊重を考慮した言葉遣いとして、不適切な言葉遣いを使用してしまう場面がみられる、職員間に於いても互いに注意しにくい環境もある。	介護士としての立場としての適切な言葉遣いを使用し、不適切ケアがあった場合に互いに注意し合える関係性を築いていく。	部署リーダーと接遇委員メンバーが協力し、毎月、職員個々の評価を行い、不適切なケアを行っている職員に対して、個々に具体的な目標を設定し、取り組んでもらう。 また、注意喚起として、部署リーダーと接遇委員メンバーが積極的に普段の業務の中で指導を行っている。	6月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

### 3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		( ↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他( )